



当時モノのリアパーツで 組むカフェ王道スタイル CB400Four

BRC

TIRE : DUNLOP TT100GP [F]3.00-18 [R]3.50-18

ビモータ、と言われてイメージを思い浮かべた人もいるだろう。それは90年代以降の思考か。もっと前へビモータの歴史をもっと少し遡ると、オリジナルの鋼管フレームにCBやCB・Fのエンジンを積んだHB、GSのエンジンを積んだSR、あるいはZ系エンジンを積んだKBなどのパーツにぶち当たるのだが、そういったモデルを中心として日本でもカフェレーサーブームが起ったことや、そうしたカフェを得意とするヤジマが80年代、六本木にシヨールームを出したことを覚えている人は、さすがに少なくなってしまった(そりゃそうだ)。

BRCは、そんなカフェ全盛期を思わせるカスタムを多く手がける。写真を見ても分かる通り、仕上げりはまごころこぎな当時風で、旧車ベースのカスタムと言ってもまったく違和感を感じさせない。さらに驚くのは、使われているパーツの多くがリプロダクト品ではなく、当時モノであるということだ。たとえばこのヨンフォアの場合、フロントフェンダー/タンク/シートカウル、それにステップやリヤアームなどはビモータのオリジナル品で、ほかにもマキシム製Fキャリパーキット、ビート製リヤディスクキット、リード製ポイントカパーなど、当時モノパーツがふんだんに装着されている。その上でのこの王道スタイル。マニアならずとも食指が動くところだろう。

同店ではこうしたリアパーツを取りそろえる一方、国内でどうしても見つからないパーツに関しては、海外のコレクターから購入&輸入することもあるという。こうしたネットワークやノウハウを持っていることもまた、同店の大きな強みなのだ。



1 ベースは'75年式。当時のイメージを崩さないよう、フレーム補強などはあえて入れていない。フォーク/ステムはSTDでメーターのみホワイトパネル加工+同店製メーターアップブラケットで取り付け位置を上方に移動。

2 3 エンジンにはヨシムラφ54.5mmピストンキットに408cc用クランクを組み合わせた466cc化(ストロークは50mm)、さらに燃焼室&ポート加工、BRC製レーシングバルブ、ヨシムラST-1カムなどを組みチューニング。さらにCRキャブ、BRC手曲げ管(ラージバッフル使用)といった吸排気系の変更でパワーアップ

4 2.15-18/2.15-18ホイールもビモータの当時モノ。リヤショックはコニの初期型鉄ボディ、通称ウイングコニを装着。チェーンはRK製ブラックで530化